

れんさい 監査の四季

第30回 鯖江市代表監査委員
川中清司

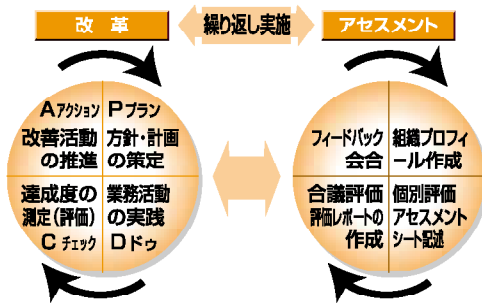
これからの地方行政(3) お役所意識の改革

「もったいない」一粒のご飯にも八十八の仏さまがいらつしやる、こう教えられた。電気はこまめに消し紙は裏をもう一度使った。戦後は大量生産、大量消費、使い捨て賞賛へと変わった。

役所といえば親方日の丸。予算主義で節約意識が乏しくムダが多い。こんな昔のイメージも今大きく変わってきました。

進む行政事務の見直し

国の財政事情は危機的。借金が700



鯖江市の行政経営品質向上活動

兆円を超えGDPを上回り、その上少子高齢化でコストがかさむ。三位一体の構造改革が進み地方財政は冬の時代に入りました。

総務庁は今年6月、こんな行政効率化推進計画を打ち出しました。

- ・ 各省の公用車は25年までに600台減らし、低公害車にする。
 - ・ 公共工事はコストを縮減する。目標は5年間で15%下げる。
 - ・ 競争入札を増やし品質を高める。
 - ・ 電話料金は割引制度を使う。
 - ・ 事務用品は一括購入で節減。
 - ・ 電子政府を目指す。省エネ、効率化を進め、申告、納税も電子化。
 - ・ 統計調査は役立つものにしぼり、業務外部委託を進める。など
- いずれも納税者の視点で見直す。

進む鯖江市の行政改革

鯖江市では各課ごとに改善の目標を具体的に決め、ただでできたかを評価して再挑戦する、行政経営品質向上活動を始めました。

市民は市役所のお客さま。住民の満足度の向上が第一。声をよく聞き、全庁挙げて市民本位の行政のしくみを築こうとしています。